プレスリリース

令和元年（2019 年）10 月 15 日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所

国立研究開発法人海洋研究開発機構

国立大学法人北海道大学

北極域研究推進プロジェクト（ArCS）の公開講演会『北極研究から見えてきたもの』を開催します

国立極地研究所（所長：中村卓司）が代表機関を、海洋研究開発機構（略称：JAMSTEC 理事長：松永 是）および北海道大学（総長：名和豊春）が副代表機関を務める北極域研究推進プロジェクト（ArCS※1）では、2019 年 12 月 15 日（日）に公開講演会『北極研究から見えてきたもの』を開催します。

＜開催概要＞

2019 年度北極域研究推進プロジェクト公開講演会

『北極研究から見えてきたもの』

日　　時　：2019 年 12 月 15 日（日）13：00～17：15（12：30 開場）

場　　所　：伊藤謝恩ホール（東京都文京区本郷 7-3　東京大学本郷キャンパス
伊藤国際学術研究センター B2F）

共同主催　：情報・システム研究機構 国立極地研究所、海洋研究開発機構、北海道大学

参加方法　：ウェブサイトからの事前申し込み制
（http://www.arcs-pro.jp/20191215kouenkai/）
先着 350 名、参加無料

主な対象　：一般

内　　容　：

この講演会では、SDGs（※2）を中核とする国連の「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」で示されている自然環境、社会・経済、人間社会の持続性をキーワードに、ラウンドテーブル（※3）形式で、まもなく終了する ArCS プロジェクトの研究成果を紹介しながら、日本が諸外国と協力して北極研究を続ける意義や、そのために重要なことについて話し合います。

ラウンドテーブル 1：自然環境の持続性

ラウンドテーブル 2：社会・経済の持続性

ラウンドテーブル 3：人間社会の持続性

各ラウンドテーブルの話題提供の内容等、詳細は別添の公開講演会ちらしをご覧ください。

＜注＞

※1　北極域研究推進プロジェクト（ArCS：　Arctic Challenge for Sustainability）

2015 年 9 月から始まった文部科学省の補助事業です。国立極地研究所および海洋研究開発機構、北海道大学の 3 機関が中心となって、急変する北極域の気候変動の解明と環境変化、社会への影響を明らかにし、内外のステークホルダーが持続可能な北極の利用等の諸課題について適切な判断を可能とする精度の高い将来予測や環境影響評価等を行うことを目的としています。

北極域研究推進プロジェクトのウェブサイト　http://www.arcs-pro.jp/

※2　SDGs（Sustainable Development Goals）

持続可能な開発目標の略称で、17 の目標と 169 のターゲットからなります。

※3　ラウンドテーブル

話題提供者とファシリテーターを含む数名のコメンテーターがテーブルを囲み、話題提供者のテーマに即して自由に意見を交換する話し合いの方法です。ファリシテーターが進行を援助します。

別紙資料

公開講演会ちらし

お問い合わせ先

（報道について）

国立極地研究所 広報室

TEL: 042-512-0655　　FAX: 042-528-3105　　E-mail: kofositu@nipr.ac.jp

（北極域研究推進プロジェクトに関して、講演会の内容について）

国立極地研究所 国際北極環境研究センター

柿本 晃治郎（かきもと　こうじろう）／辻 勇気（つじ　ゆうき）

TEL: 042-512-0915　　E-mail: arcs@nipr.ac.jp

（別紙）

2019年度
北極域研究
推進プロジェクト
公開講演会

北極研究から見えてきたもの

グリーンランド・イルリサット沖。地元の漁師がイルリサット氷河から流れてきた氷山のなかに船を出し、漁を行っている。（提供：国立極地研究所）

参加無料

先着350名様

日時 2019年12月15日(日) 13:00～17:15 開場 12:30

会場 伊藤謝恩ホール 東京都文京区本郷7-3
東京大学本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター B2F

- ●地下鉄丸の内線 本郷三丁目駅 徒歩８分
- ●地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩６分
- ●地下鉄千代田線 湯島駅または根津駅 徒歩15分

共同主催 国立極地研究所 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
JAMSTEC 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology
北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY

申込詳細 ArcS Arctic Challenge for Sustainability
https://www.arcs-pro.jp/20191215kouenkai/

2019年度北極域研究推進プロジェクト公開講演会

北極研究から見えてきたもの

講演会概要

SDGs※を中核とする国連の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、自然環境、社会・経済、人間社会の諸課題を統合的に解決することの重要性が示されています。北極においても例外ではなく、各分野の調和を大前提とする持続可能な利用方法の模索が喫緊の課題となっています。この課題の解決に大きな役割を果たすのが科学研究です。本講演会では、まもなく終了するArCSプロジェクトの研究成果を紹介しながら、日本が諸外国と協力して北極研究を続ける意義や、そのために重要なことについて話し合います。

※SDGs：Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標の略称。17の目標と169のターゲットからなる。

講演会内容

自然環境、社会・経済、人間社会の持続性をキーワードに、3つのラウンドテーブル※を行います。

自然環境の持続性

話題提供

北極域の気候変動
過去の観測事実と将来予測
小室 芳樹（JAMSTEC）

北極海氷減少が異常気象の
リスクを変えるのか？
森 正人（東京大学）

アラスカの森林の長期観測から読み解く、
温暖化に対する森林生態系の応答
小林 秀樹（JAMSTEC）

ディスカッション

瀧澤 美奈子（ファシリテーター：科学ジャーナリスト）、
小室、森、小林、羽角 博康（東京大学／JAMSTEC）、
菊地 隆（JAMSTEC）

社会・経済の持続性

話題提供

環境変化が北極海の
生態系と水産活動に与える影響
平譯 享（北海道大学）

航路利用・沿岸社会への
波及効果を考慮した海氷予測・
気象予測の高度化の可能性
猪上 淳（国立極地研究所）

ディスカッション

瀧澤、平譯、猪上、大塚 夏彦（北海道大学）
齊藤 誠一（北海道大学）
榎本 浩之（国立極地研究所）

人間社会の持続性

話題提供

ボードゲームを通じた
北極域の諸問題への関心の喚起
木村 元（JAMSTEC）

東シベリアの環境変化と
地域住民の認識
藤岡 悠一郎（九州大学）

ディスカッション

瀧澤、木村、藤岡、田畑 伸一郎（北海道大学）
末吉 哲雄（国立極地研究所）
深澤 理郎（国立極地研究所／JAMSTEC）

※ラウンドテーブル：話題提供者とファシリテーターを含む数名のコメンテーターがテーブルを囲み、話題提供者のテーマに即して自由に意見を交換する話し合いの方法です。ファリシテーターが進行を援助します。

伊藤謝恩ホール

東京都文京区本郷7-3
東京大学本郷キャンパス
伊藤国際学術研究センター B2F

〈アクセス〉
- ●地下鉄丸の内線 本郷三丁目駅　徒歩８分
- ●地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅　徒歩６分
- ●地下鉄千代田線 湯島駅または根津駅 徒歩15分

お問い合わせ先

情報・システム研究機構 国立極地研究所 国際北極環境研究センター
NiPR e-mail arcs@nipr.ac.jp TEL 042-512-0915

申込・詳細 https://www.arcs-pro.jp/20191215kouenkai/

※プログラムは都合により変更する場合があります。